

「宇宙じゃないビジネス」と「宇宙ビジネス」は既に多くの接点がある。もう特別な産業ではない。その現実を知ってほしいのです。

宇宙と関わりの無い人はいない、という時代がすでに来ている。そう言われて実感が湧くでしょうか。でも2022年現在、宇宙は海運、航空に次ぐ新しいインフラとして大きく発展し続けているのです。そう語るのは「とっとり宇宙産業創出連続講座」の第一回目の講師、一般社団法人スペースポートジャパン理事の片山俊大さんです。

スペースポート＝宇宙港は特別なものではない



スペースポートは宇宙へ人やものを運ぶための港です。ロケットの打ち上げや、滑走路から宇宙に飛び立つスペースプレーンが離着陸する拠点になります。

現在、スペースポートの需要が年々高まっています。なぜなら、私達が普段使っている通信やGPS、カーナビの情報や、天気や災害の予測の多くは人工衛星からの情報によって運営されているからです。宇宙とはすでに身近なインフラであり、生活に欠かせない空間なのです。

また、宇宙ステーションや月、はては火星の開発を視野にいれた計画もあります。このように宇宙への輸送需要の拡大に伴い、スペースポートの必要性も高まっています。だからこそスペースポートを含む宇宙産業は大きなビジネスチャンスなのです。

## 宇宙と地球を繋ぐ、地上の拠点

当然ですが、スペースポートは地上に建設されるものです。現在の空港周辺を想像してください。周囲には、観光、宿泊、輸送に関わる様々な施設が集まって、一つの街のようにになっている場所も数多くあります。

スペースポートも同様で、港自体の建設に伴い、その周辺には、宇宙関連企業のオフィスや宿泊施設、レジャー施設、それらに関連する様々な施設が必要になってくるでしょう。また、宇宙を経由して短時間で地球上の拠点を移動出来る宇宙船も、実現する日がくるでしょう。宇宙空間を経由して日本とアメリカを1時間以内で結ぶことも可能になります。

このような大規模な地域開発は、雇用を創出し地方の活性化につながるため、経済の起爆剤としての官民協働の様々な企画が立ち上がっているのです。

## 日本はスペースポートの好立地

ロケットやスペースプレーンは地球の自転を利用して東に向けて発射するか、極軌道に向けて南に向けてするかのパターンが多い。なので、東方向や南方向に国境や人が住んでいる地域がないことが条件になります。

その点で南も東も公海が広がる日本は絶好の好立地。国境を接している国がなく周辺が海に囲まれているからです。そのため日本のスペースポートは、潜在的な需要は非常に高いと言えます。

事実、すでに北海道、和歌山、大分、沖縄などでは、スペースポート実現に向けて動きが活発化しています。

## スペースポートの認知を拡大するために



スペースポートジャパンは高い専門性を持つ7人の有志によって2018年に設立されました。講師の片山さんは中でも企業関連のPR等を担当なさっています。

創業当初は、スペースポート、スペースエアライン事業が今後10年で確実に拡大していく、生活に必要不可欠なツールになるのだ、といっても、遠い先の話だと思われるが多かったんですね。そこで、2020年に「スペースポートシティ構想図」を発表することで、スペースポートとその周辺の街がどのようになるかを、世界に発信することができました。

もともと片山さんは宇宙産業については専門外だったそうです。きっかけは、2015年、中東アブダビにおける資源エネルギー系の展示会で、宇宙における資源エネルギーについてのパビリオンを出展し、大きな反響を得たことでした。結果、その延長で、宇宙に関する協定が結ばれたり、宇宙ステーションでの教育プログラムが立ち上がるなどの成果が生まれたのです。

「ビジョンの逆輸入」という表現をされましたが、中東で発表したビジョンが、半年後くらいに日本のメディアで特集されるようなことが、何度もあったようです。

## 宇宙のための研究が地球に活かせる

宇宙開発のために行っていることが、地球での産業で活かせるという例もあるようです。

たとえば、火星に移住するために、火星の環境を地球と同じように、緑や水のある場所にしようとします。その技術の実現を前倒しして、地球上の砂漠化が進み人が住めなくなっていく地域を緑化することもできるかもしれません。

特に鳥取県には砂丘という乾燥した土地がありますから、火星で行いたい実験をモデルケースとして鳥取砂丘で行うということも可能かもしれません。そしてその結果を世界の砂漠化地域に応用すれば、未来の可能性はより広がります。

## 宇宙をどうやって活用するのか

「人類が火星に行っていないのは、科学の敗北ではなくマーケティングの失敗なのだ。」という言葉があります。私達は遠い星に行くことができないのを技術力が無いからだと考えがちです。

しかし、「火星に行かなくてはならないのだ」という目的意識と必要性があれば、プロジェクトが発生し資金が集められ、技術は進展します。

今後、宇宙をどんなことに使うかによって産業の発展する方向が変わると片山さんは語ります。かつて、日本から何週間も船にのってヨーロッパに行っていた時代、飛行機で十数時間あればフランスに行ける、と言ってもだれも信じませんでした。同じことが今起こっています。

技術者の発想だけでは変化は起こらない。異なる業界の人たちが集まって、どういうふうに宇宙を使っていくのか、それに伴うビジネス、倫理、法律などはどうなるのかを考えていくことが重要だとのことでした。

## 実施イベント内容の紹介

イベント名：令和4年度とっとり宇宙産業創出連続講座～第1回～

開催日：8/25(木) 16:00-18:00

開催場所：SANDBOX TOTTORI 鳥取県鳥取市浜坂1390-224

講演テーマ：“宇宙ビジネス”と“宇宙じゃないビジネス”のつなぎ方

講師紹介：

一般社団法人 Space Port Japan 共同創業者 理事 片山 俊大

株式会社電通入社後、クリエイティブ、メディア、コンテンツ等、幅広い領域のプロジェクトに従事し、日本政府・地方公共団体のパブリック戦略担当を歴任。日本とUAEの宇宙・資源外交に深く携わったことをきっかけに、宇宙関連事業開発に従事。専門分野は「広告・PR領域全般」「新規事業創造」「M&A」「公共戦略/官民連携推進」「エンタメ・コンテンツ戦略」等。著書に『超速でわかる!宇宙ビジネス』(すばる舎)がある。

文章作成：とっとり宇宙産業創出連続講座事務局（委託先:ダブルノット）